

北海道大学

北海道大学大学院医学院
MPHコース 説明会

北海道大学 大学院医学研究科
公衆衛生学分野
教授 玉腰暁子
tamaa@med.hokudai.ac.jp

2016.10.29 北海道大学

1

公衆衛生(Public Health)とは C. Winslow 1920

- 環境衛生の改善, 伝染病の予防, 個人衛生の原理にもとづく衛生教育, 疾病の早期診断と予防的治療のための医療および看護業務の組織化, さらに地域社会のすべての住民が健康を保持するにたる生活水準を保障するような社会機構の発展を目指して行われる地域社会の努力を通じて, 疾病を予防し, 生命を延長し, 健康と人間的能率の増進をはかる科学であり, 技術である

2

2

北海道大学の基本理念

フロンティア精神: 学生及び教職員がそれぞれの時代の課題を引き受け、敢然として新しい道を切り拓いていくべきとする理想主義

国際性の涵養: 欧米の文化と科学技術を導入し、外国人教師の英語による授業を行った札幌農学校は、設立当初から多様な世界にその精神を開いていた

全人教育: 札幌農学校は、農業専門家の養成に止まらず、豊かな人間性と高い知性を兼ね備え、広い教養を身につけた人間の育成を図った

実学の重視: 現実世界と一体となった普遍的学問の創造としての研究と、基礎研究のみならず応用や実用化を重んじ研究成果の社会還元を重視する

北海道大学: 平成38年に創基150年
医学部: 平成31年に創立100周年

3

北大キャンパス

1-1 社会的背景・ミッションの再定義、医学院設置の必要性

4

社会的背景

- 社会の創造・成長を牽引する人材の不足
- 現代社会の健康・医療問題のグローバル化、多面化による公衆衛生への社会的関心の高まり
- 生命関連データ量の増大による医学・情報科学の融合の必要性

学内背景

- 学際・研究領域の推進
 - 学際的な学問分野での研究領域の発展的な追求
 - 先端的・学際的な研究への対応
- 医療系の高度専門職人の養成に向けて、全学的に医大大学院を推進
 - 医学研究科及び歯学研究科の学際・研究院への移行
 - 理工学大学院の設置

本学の医学系分野のミッションの再定義

- 北海道大学の理念(フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視)等に基づく、指導的立場として活躍できる医師・研究者等の養成の推進
- 基礎研究成果の臨床への実践・研究拠点

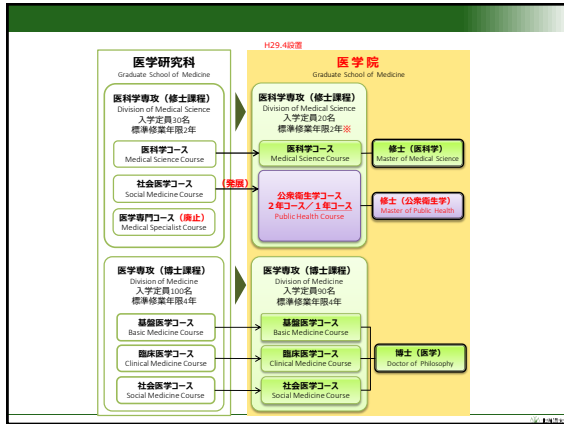
- 医学研究科教員の他学院(理工学大学院、国際感染症学院)教育への参画
- 他研究科教員の医学院教育への参画
- MPH(公衆衛生学修士)コース設置の必要性
- 横渡し研究を推進する教育、医学・情報科学を融合した教育の実施の必要性

医学研究科の再編の必要性→医学院、医学研究科の設置

北海道大学に公衆衛生学コースを設置する必要性

5

現代社会の健康・医療問題のグローバル化、多面化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 温暖化に代表される地球環境変化 加速する少子高齢化 うつ病・自殺者、過労死の増加 原発事故に引き続き放射能汚染 食の安全 など
国際競争力の強化「臨床及び医療行政現場の高まる課題への対応」	<ul style="list-style-type: none"> エビデンスに基づく診断・治療の確立 エビデンスに基づく医療政策の立案 国際競争力の強化
世界水準からの遅れ(米国の現状)	<ul style="list-style-type: none"> 1916年ジョンスホプキンス大学に設置 米国2010年46校 学生総数26,430人(人口約3.1億人) ⇨ 日本2014年(人口約1.2億人)、入学定員: 専門職大学院104名、公衆衛生学コース約50名
北海道の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 人口: 543万人(全国の4.3%) 面積: 国土の22% 自然・社会・環境問題等の独自性 他地区の先を行く高齢化 北海道の公衆衛生対策の重要性と普遍性
北海道大学の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 総合大学(医療系・生命理工学系) 人文社会科学系大学院の充実 学際的な教育体制の整備が可能



7

養成する人材像

- 北海道大学の4つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）及び医学院の理念（世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献）の下、医学・生命科学・社会医学（公衆衛生学）に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材、ならびに健康および安全に対する多様かつ広範な地域社会または国際社会の要請に応えることのできる広くかつ高い見識を備えた人材の養成を教育目標とする。

医科学専攻修士課程

- 医学院の教育目標に基づき、医学・生命科学・公衆衛生学領域の研究者や教育者として、医療・公衆衛生関連分野の高度専門職業人として、あるいは保健医療や保健政策マネジメントなどの専門家として、それぞれの領域において貢献をなす活動を将来独自で行えるための基礎的知識と基礎的技能を有した人材を養成する。

8

関連分野（教室）

- 衛生学・細胞予防医学分野
- 公衆衛生学分野
- 医療政策評価学分野
- 医学統計学分野
- 医学教育・総合診療医学分野
- レギュラトリー・サイエンス分野
- 先進医療マネジメント学分野
- 法医学分野（2018年度から）

北海道大学

9

1年コース/2年コース

2年コース：社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする

1年コース：一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として、医療・公衆衛生領域で活躍できる高度専門職業人を1年で育成することを目的とする

- 大学における医学、歯学又は6年制の薬学を履修する課程を卒業し、医師、歯科医師又は薬剤師として、2年以上の実務経験（臨床研修の期間を含む。）を有する者
- 本学院において、個別の審査により、上記（1）に相当すると認められた者

10

修得する能力

- 社会全体ならびに人々の健康と生活、安全にとって必要なシステム・ルールを理解できる。
- 社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の実態とその維持・向上に必要な情報を入手できる。
- 入手した情報を科学的に吟味解釈し、結果を関係各所に発信できる。
- 情報が不足している場合には、自らその情報を得るために行動できる。
- 得られた結果から、必要な対策を立案できる。
- 対策を実施するために関係各所と必要な調整ができる。
- 実施した対策の結果を評価し、次の対策につなぐことができる。

北海道大学

11

教育カリキュラム（青字は2年コースのみ）

共通コア科目	必修科目II
基本医学研究概論	公開発表演習
基本実験・研究計画法	研究発表技法Ⅰ
医倫理学序論	研究発表技法Ⅱ
トランスレーショナルリサーチ概論	基本公衆衛生学研究Ⅰ
	基本公衆衛生学研究Ⅱ
必修科目I	選択科目
基礎疫学	応用疫学
基礎生物統計学	応用生物統計学
基礎社会行動科学	応用社会行動科学
基礎保健医療管理学	応用保健医療管理学
基礎環境保健学	応用環境保健学
基礎医学概論	30単位以上修得
臨床医学概論	+修士論文または特定の課題についての研究の成果
	（1年コース）に関する審査及び試験に合格

12

ディプロマポリシー

- 社会全体及び人々の健康と生活・安全に必要な仕組みを理解し、公衆衛生学上又は予防医学上の諸課題の解決に必要な情報の収集・分析により、健康の維持増進に向けた対策を立案するとともに、これを円滑に実施し、得られた結果を適切に評価することにより、新たな課題を次の対策につなげて持続的に公衆衛生学領域の発展に寄与する能力

13

キャリアパス

- 行政機関（国・自治体・国際機関）、企業・団体の健康管理部門における公衆衛生学の専門家
- 医療機関における高度な公衆衛生学の知識を有する医師・歯科医師など

